

G 8 + 中国、インド及び韓国エネルギー大臣会合共同声明骨子

石油市場及び投資環境

- 最近の原油価格高騰に対する深刻な懸念を共有。この価格は異常であり、消費国・産油国双方の利益に反する。現在の油価は、途上国をはじめとして重荷となっている。現在の経済状況打破のためには、金融・マクロ経済政策が重要であるとともに、エネルギー政策担当者による一致した行動が必要。
- 石油価格形成の短期的要因は在庫、地政学要因等複雑。この問題が来たるG 8財務大臣会合で議論されることを歓迎。
- 省エネ、非在来型石油、代エネ促進等、国内政策を抜本的に強化。運輸部門の代替輸送・代替燃料技術が不可欠。石油製品取引の増大は市場安定に貢献。
- I E Fの結果を歓迎。J O D Iを通じ完全に信頼に足るデータを提供。産油国・消費国は原油供給の不確実性を排除するために努力。
- E I T Iへ参加する資源産出国の努力を歓迎。
- 5カ国エネルギー大臣会合の共同声明を歓迎。

エネルギー安全保障と気候変動

省エネルギー

- 省エネに向けた政策を引き続き強力に推進。I E Aの省エネ改善のための勧告は、それへの重要なインプット。エネルギー原単位統計の充実、電化製品・自動車の省エネ基準強化、新築ビルの省エネ基準義務化、非効率な照明のフェーズアウト等を検討。
- 省エネ目標は、世界の省エネポテンシャルを希求する国際的努力を促進することを認識。国別に省エネ目標、行動計画を設定。
- 国際省エネ協力パートナーシップ（I P E E C）設立を合意。全ての関心ある主要経済国がI P E E Cに参加することを慫慂。

- 主要なエネルギー消費セクターに焦点をあて、国情に応じた省エネパフォーマンスの分析計測、省エネポテンシャルの評価、適用可能な技術の特定等により、省エネ政策の実効性強化が可能。セクター別アプローチは省エネに有効な手段であり、その実用化に向けて協働。主要エネルギー消費セクターの省エネ促進のための国際協カイニシアティブを歓迎。
- エネルギー指標作業は、セクター別・国別・国際的な省エネポテンシャル評価を支援するものとして評価。時機を得た信頼できるデータが必要であり、官民がこれらの作業に協力することを歓迎。発展途上国の統計のキャパビルが重要。

より低炭素なエネルギーに向けたエネルギー多様化

- 各国の事情やプライオリティを尊重し、再生可能エネルギーや、化石燃料のクリーン利用、関心を有する国にとっては原子力エネルギーなどの、種々のより低炭素なエネルギーについて、国別の目標や行動計画を持って推進。

化石燃料のよりクリーンな利用

- CCSについて、初期プロジェクトにおける金融面のギャップ、リスクへの対応、法的規制的枠組みの整備、啓蒙を強化等により、幅広い普及に向けた環境を整備。

再生可能エネルギー

- 再生可能エネルギー技術の研究開発と普及を促進し、適切な規制、インセンティブの必要性を理解。多様な国際イニシアティブの貢献を歓迎。

原子力

- より多くの国が、気候変動への対応とエネルギー安全保障の確保に向けた手段として、原子力への関心を表明していることに留意。不拡散、原子力安全、核セキュリティを確保。民生用原子力を導入する国と、人材育成、規制制度、資金を含むインフラ整備の面で協力。

より低炭素で効率的なエネルギー技術の普及

- 途上国への技術普及促進のため、資金メカニズム等の国際協力を強化。

革新的技術開発

- 革新的技術は長期的なエネルギー安全保障と温室効果ガス大幅削減のための鍵。G8諸国は、国情に応じ、エネルギー研究開発投資を増加すべく努力する。関心のある国は、省エネと低炭素技術の開発と普及の加速に向けたイニシアティブをとり、IEAの枠組みや技術開発ロードマップを通じ、現在の国際的パートナーシップを評価するとともに更なる国際協力を探求する。
- 既存の国際パートナーシップにおける協力を強化。IEAの技術ネットワークをアウトリーチ国に拡大。
- 初めてのG8+中・印・韓の議論を歓迎。G8と他国のエネルギー大臣の対話を促進。
- 次期G8議長の下、2009年にエネルギー大臣会合を開催。